

自治会法人 大沼自治会

地域の話題

自治会紹介シリーズ

『自治会法人 大沼自治会』

大沼公民館管区内で最も広い面積を有しているのが大沼自治会です。(昭和47年発足・1082世帯・校区は大沼小と双葉小) 猛暑続きの夕刻、自治会館にお邪魔して北野友一会長と広報担当の古谷さんにお話を伺いました。

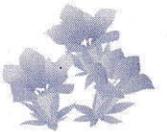
会館前には「大沼自治会」と名前入りの軽トラックが停めてあり、玄関内にはまだまだ数が少ないAEDが設置され、一階大ホールの広さにも驚きました。「やっと借入金を完済し、皆で大切に使っています」と会長談。

「大沼自治会にはホームグラウンドとしてふれあい広場があるので4大イベントの《どんど焼き》《納涼盆踊り大会》《子ども神輿(みこし)巡行》《会員交流会》などが実施でき恵まれています」と古谷さん。

この度、子ども神輿巡行に使う子ども用の法被(はっぴ)60着を作ったそうですが、その代金の一部は盆踊り大会模擬店の収益金をあてたとお聞きし、収益金が目に見える使われ方をする事は皆さんの励みになると思います。

その子ども神輿巡行は9月末頃の大沼神社例大祭当日の早朝、神社で「奉遷祭(ほうせんさい)・御輿に神霊を入れる儀式」の後、御輿を先頭に子どもが引く山車(だし)が地区を巡ります。

「今年は子どもたちに揃いの法被を着



せてやれる」と会長さんは顔をほころばせていらっしやいました。

様々な行事を支えるのはやはり「人」が最も大切で、役員OBなどの「自治会協力隊」が登録されていてイベントの際には皆さん快く手伝ってくださるそうです。

また、老人クラブ「夢クラブ」は現在60人を超え様々な奉仕活動も行っているそうです。

2年前に発足した「憩★憩ピンポン茶話会」は月一回ピンポン台を囲んで賑やかに口と体を動かしているとか。

他の自治会との交流も大切にされていて、グリーンハイツとの自治会会報の交換は10年ほど続いているとのこと。

「課題は、大所帯をまとめ上げる会長の後任問題です」と話す古谷さんですが希望の光は見えているようで、会長も「とにかく大沼がわがふる里と感じてもらうためにも人づくりが大切。みんな頑張ってくれています」と笑顔で締めくくってくださいました。

取材当日は防炎会議も開かれていて会長は掛け持ちで応じてくださいました。



▲7mを超える櫓(やぐら) 猛暑にもかかわらず昨年の賑わいを超える人出となり打ち上げ花火で無事終了!

※3年前に掲載を開始した12回の「自治会紹介シリーズ」は今号で終了です。それぞれの自治会がそれぞれの問題を抱えつつも努力されていて「大沼人」の温もりのようなものを改めて感じました。ご多忙の中取材にご協力頂きありがとうございます。